

KojiMemo(21)

沖縄基地問題の解法

2010-06-12 河村幸二

十分議論を尽くしてコンセンサス形成する、などと前総理が高らかに理想を掲げたが、予想通り惨憺たる結果になった。どこかの野党が予言していたように、時間をかければかけるほど、どうしようもない泥沼にはまり込む。

企業の経営には、理念—戦略—戦術 の 3 セットがそろってはじめて機能することは常識である。企業トップは理念—戦略を、ミドル以下が戦略—戦術を担うのが普通である。国の方向付けも同じである。総理大臣は 理念—戦略 を打ち立てなくてはならない。前総理は理念（友愛とかいう得体のしれないもの）を掲げたが、戦略が極めて乏しかった。

戦略がなければ実現するわけがない。戦略のない理念のことをイリュージョン（幻想）という。小生は前総理を NPND と揶揄している（No Policy No Decision）

この激しい変革が続く中で、コンセンサス重視の優等生タイプの指導者が務まるわけがない。激しい抵抗にあいながら、バカ者呼ばわれされながら、突き進まなければ絶対に変わらない。小泉元総理はこの資格が少しあった。

そこでまたしても変人でありたいと願う小生のあまのじゃく魂が持ち上がってきてこのブログを書きたくなってきた。

1. 沖縄を日本有数の若者が夢を持てる県にする。

2. そのためには、平均県民所得が日本トップレベルでなければならない。

ここまで書いた段階で、何をバカなことを、そんなことありえないではないか、という常識的な反応が返ってくる。そう思う人は以下の文章は読まないで捨ててください・

3. 今の政府は沖縄の怒りを和らげようと、積極的な公共投資を行って仕事を作り出そうとしている。なんと浅はかな知恵のないことだろうか。札束で人の頬をなでたぐらいで、人の心をつかめるわけがない。コンクリートの土工事で、一時のお金で潤ったとしても、全国でみられるように、そうしたハコものは将来の維持にコストがかかり、子孫にかえて負担を残すだけではないか。恒久的に経済的・文化的なレベル向上をもたらす資産蓄積がなされないと意味がない。ハードよりも精神面のソフト重視であろう。これを 10 年、20 年かけて築き上げていく。

4. まずは、軍事基地の整備とともに「平和防衛大学」を設立し、各種最先端の軍事関係の研究機関を集結させる。戦争の悲惨さを経験し、あるいは見聞きして「戦争は絶対に避けなければならない」とは、誰もが幼いころから心に深く刻んでいる。しかし歴史が証

明しているように、人間は愚かであるために絶対になくならない。平和のために戦争は必要だ、などと訳のわからない論理がまかり通る。この単純な矛盾に心を痛めている世界の学者も少なくないであろう。そうした世界の第一線の学者、技術者、宗教家、社会学者に集まってもらう。定例的に全世界に開かれたシンポジウムを開催し、世界に発信する。もちろん、答えが簡単に見つかるわけではない。その議論、考え方を共有しあい、少しでも無駄な戦争を減らす世界の規範につながれば大成功である。

5. 世界でのある程度の認知が得られた段階で、国連の同主旨の機関を招致する。維持運営経費も各国が供出したくなるような内容のある研究と発信を行う。最先端、最高級の施設を整える。ただし、ここで共有するのはあくまで“平和維持のための軍事力のありかた”という研究内容であって、ハードの先端軍事技術は国家存立そのものであるので世界で共有すべきものではない。地雷の撤去、生物化学兵器から人命を守る技術、不幸にして被害にあった人々を救済する技術など、テーマの数は少なくないであろう。

6. 戦争と防衛だけでは、国民所得をトップレベルに持ち上げるには力不足かもしれない。合わせて全世界で近年顕著になってきた自然災害への防衛も含めると、一挙に活動範囲と規模が拡大していこう。

7. この施策のために10年間もしくは20年間の有期特別立法と税金を徴収する。その間毎年かつての定額給付金や子供手当相当の数兆円で実行する。前総理のおかげで、沖縄問題が全国民に再度知れ渡り、国民のひとりひとりが何とかしなければ、と自覚し始めているので、将来の方向とビジョンさえしっかりしていれば、負担は許容できるのではなかろうか。

以上